

正誤表

「平成 28 年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査」平成 28～30 年度成果報告書において、以下のとおり誤りがありましたので訂正いたします。

訂正箇所

p. 650 図 70 の図面と図説

誤

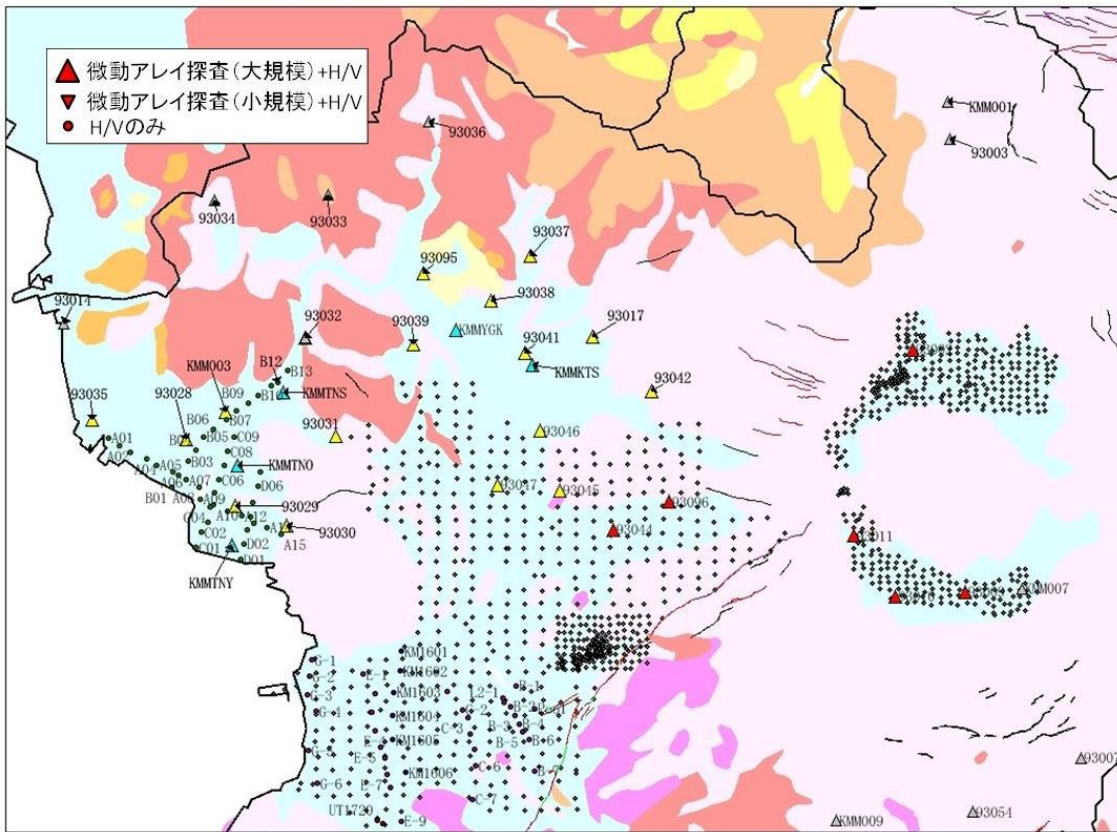


図 70 玉名平野から菊鹿盆地にかけての地域における微動探査データ（▲：微動アレイ+H/V スペクトル比、●：H/V スペクトル比のみ）の位置図。基図は 100 万分の 1 日本地質図第 3 版 CD-ROM 第 2 版（産業技術総合研究所地質調査総合センター，2003）による。

正

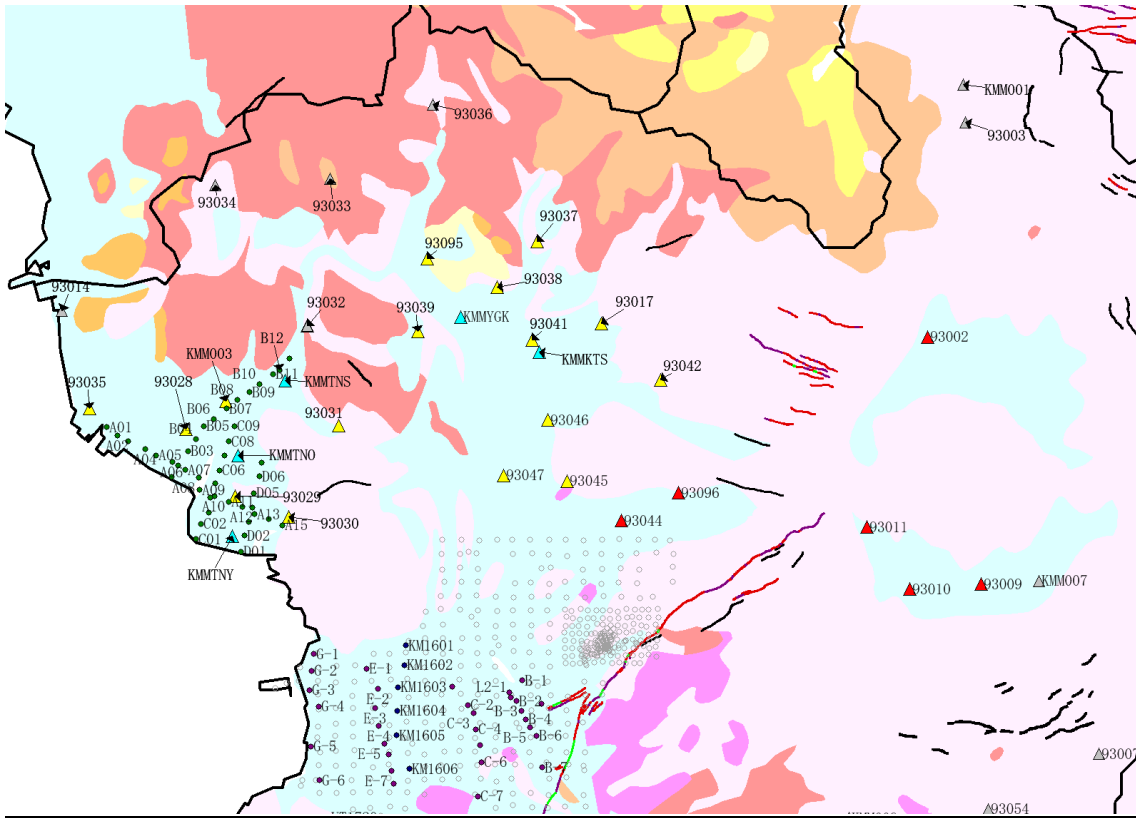


図 70 玉名平野から菊鹿盆地地域における微動探査観測位置図 (▲：微動アレイ+H/V スペクトル比、●：H/V スペクトル比のみ)。○は Senna et al. (2018) による微動アレイ探査位置を示す。基図は 100 万分の 1 日本地質図第 3 版 CD-ROM 第 2 版 (産業技術総合研究所地質調査総合センター, 2003) による。

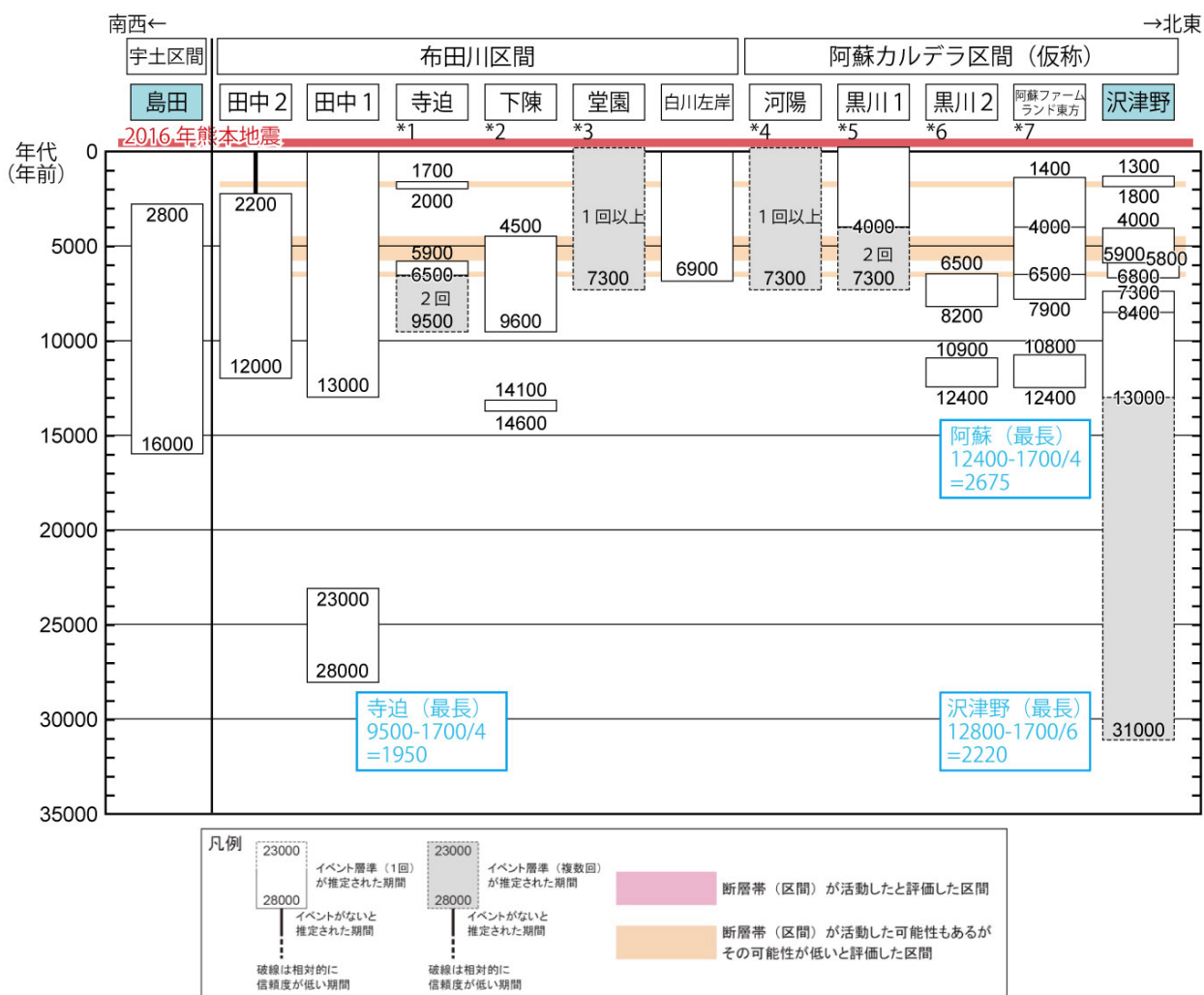
正誤表

「平成 28 年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査」平成 28～30 年度成果報告書において、以下のとおり誤りがありましたので訂正いたします。

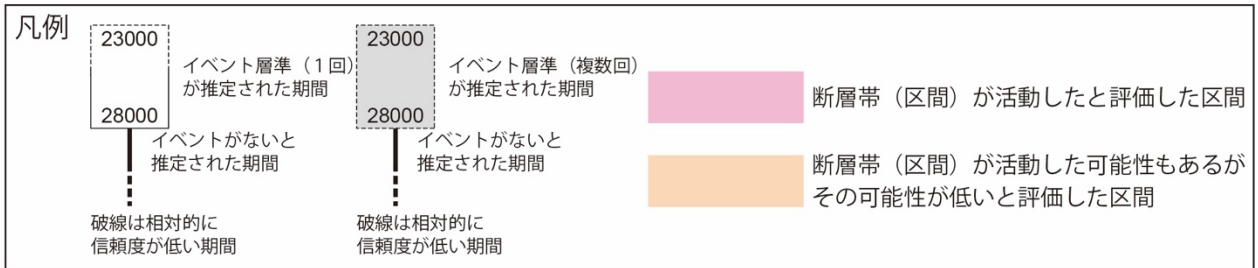
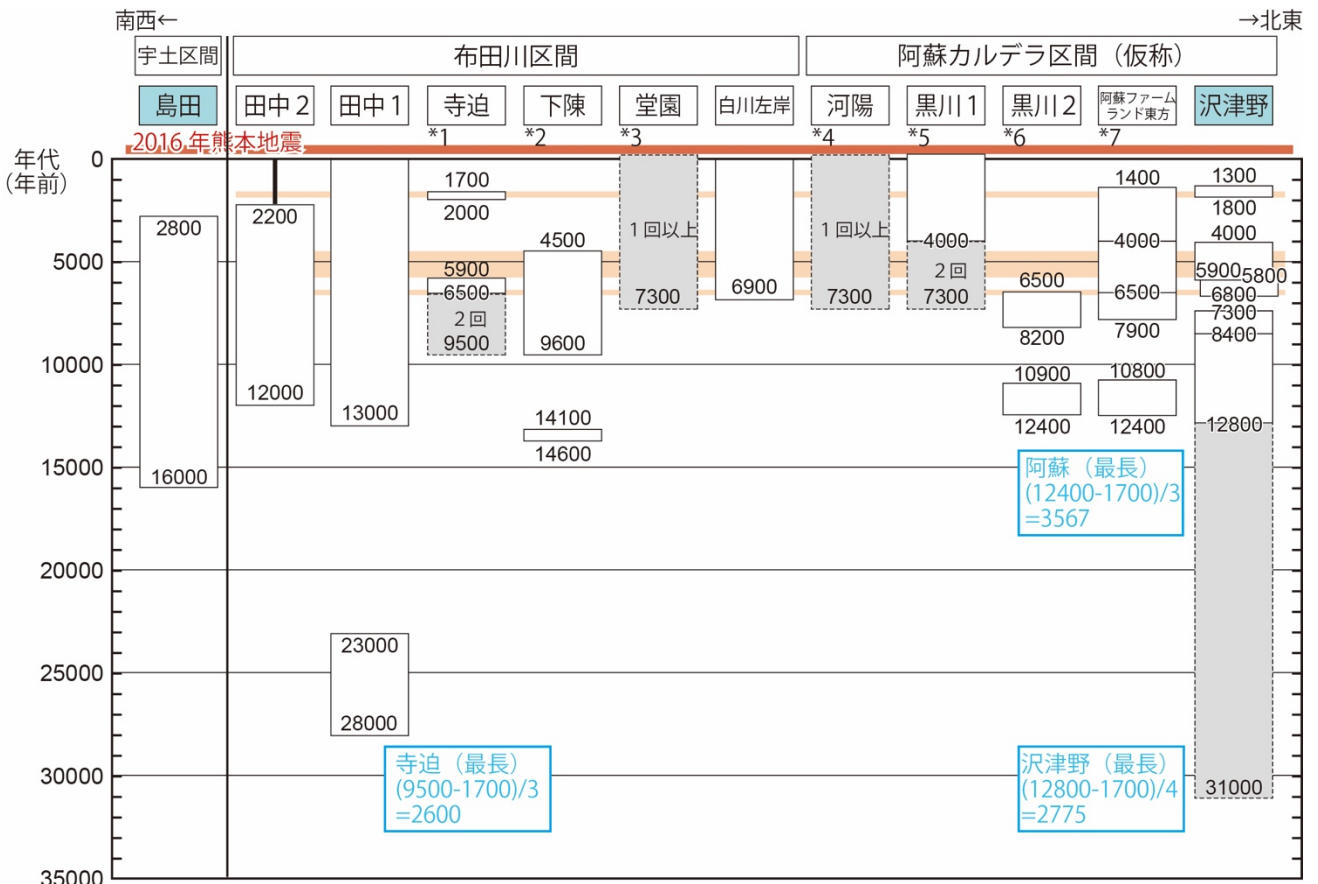
訂正箇所：図

p. 428 図 211

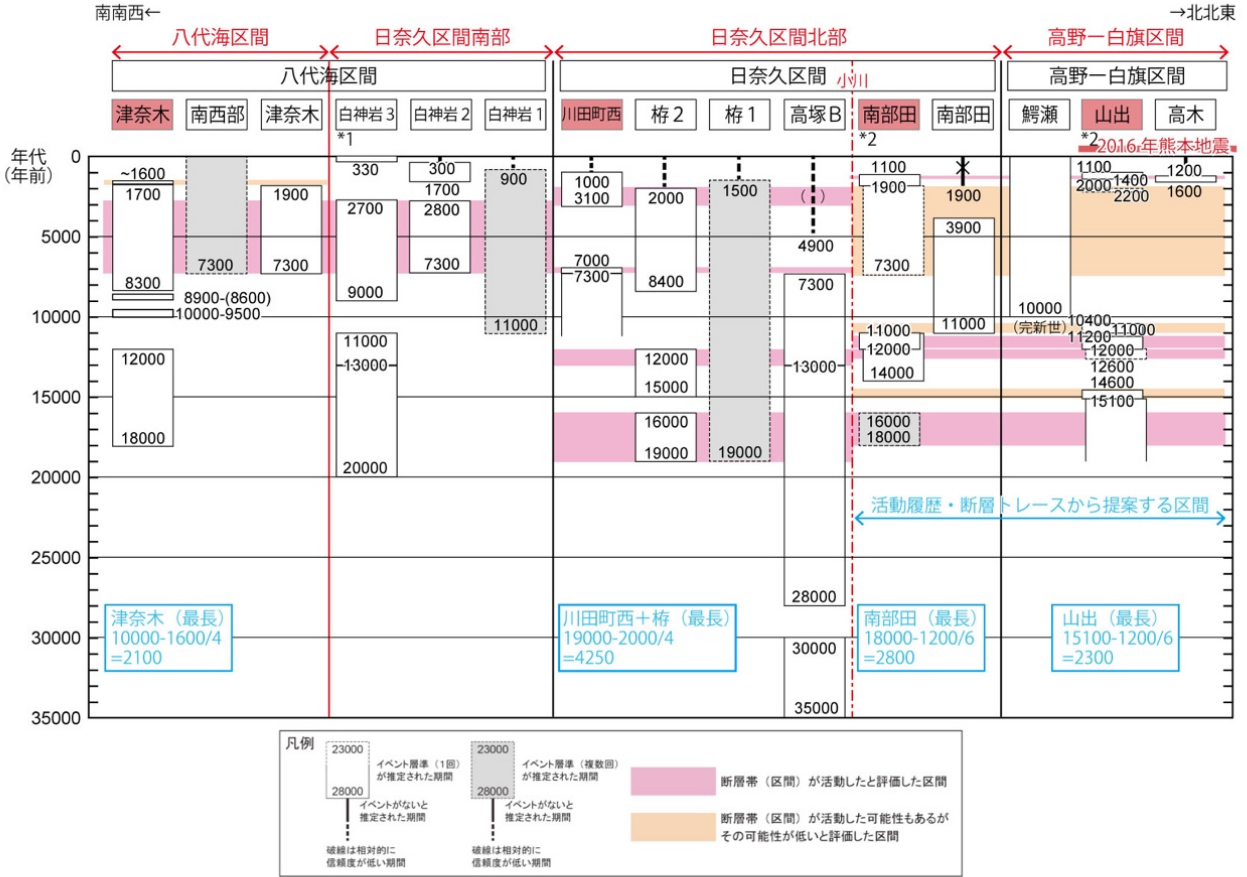
誤



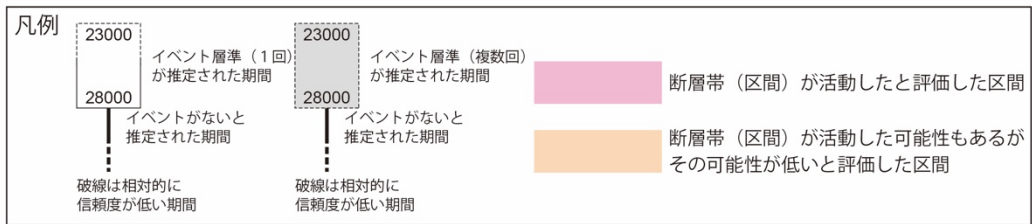
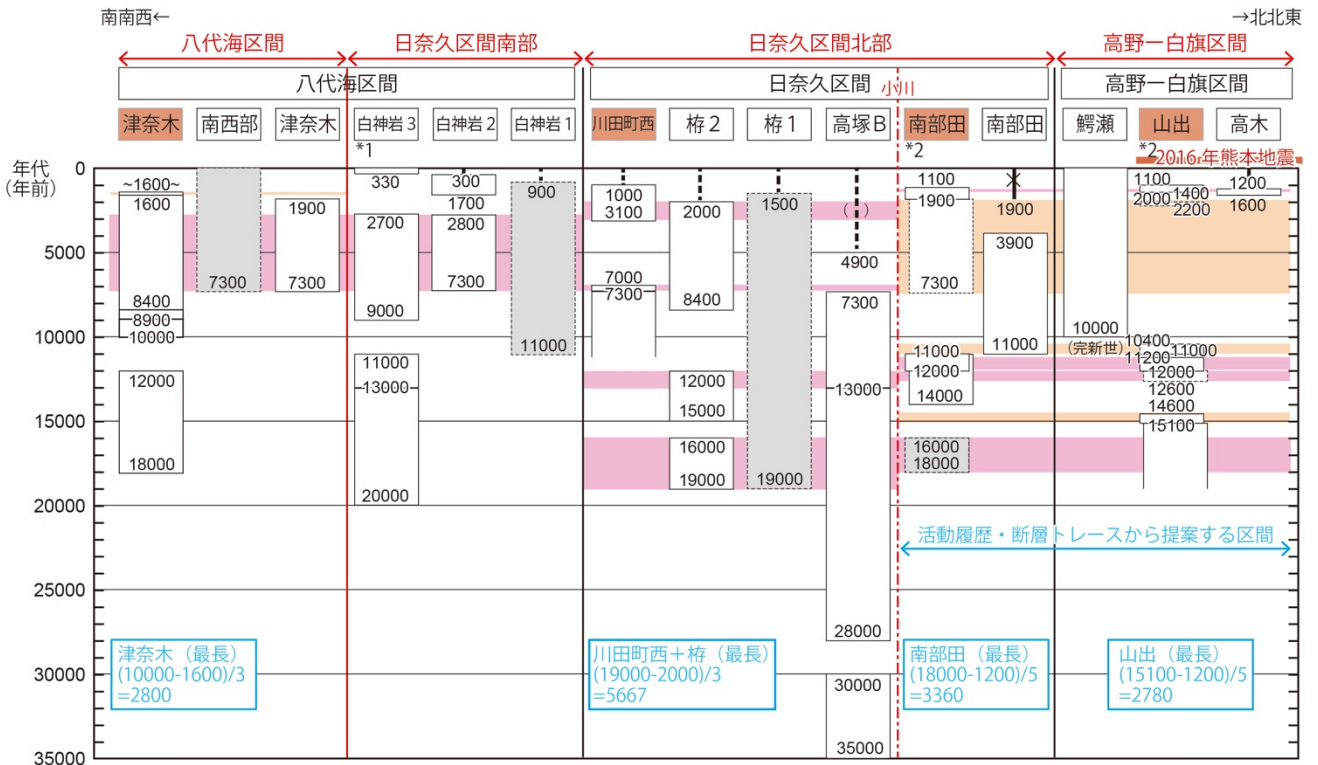
正



誤



正



訂正箇所：本文

修正番号と箇所		誤	正
1	P6, 下から 10 行目 下線部のとおり修正	約 1200 年前までの間に	約 <u>1000</u> 年前までの間に
2	P7, 下から 16 行目 下線部のとおり修正	最新活動を含め少なくとも 5 回のイベントが確認され、	最新活動を含め少なくとも <u>6 回以上</u> のイベントが確認され、
3	P8, 上から 8 行目 下線部のとおり修正	約 1200 年前までの間に	約 <u>1000</u> 年前までの間に
4	P8, 上から 14 行目 下線部のとおり修正	活動間隔は 2100 年程度と推定した。	活動間隔は <u>2800</u> 年程度と推定した。
5	P8, 上から 15～16 行目 下線部のとおり修正	千年で 0.09～0.11m であると推定した。	千年で <u>0.07</u> ～0.11m であると推定した。
6	P244, 上から 17 行目 下線部のとおり修正	少なくとも 7 回のイベントが生じていた。	少なくとも <u>6</u> 回のイベントが生じていた。
7	P425, 下から 9 行目 下線部を削除	堂園 <u>1</u>	堂園
8	P425, 下から 8 行目 下線部のとおり修正	約 4500 年前～5600 年前	約 4500 年前～ <u>5900</u> 年前
9	P426, 上から 1 行目 下線部のとおり修正	これを地点毎のイベント回数で除した。	これを地点毎のイベント回数- <u>1</u> で除した。
10	P426, 上から 2～3 行目 下線部のとおり修正	沢津野では 2220 年、阿蘇ファームランド東方では 2675 年、寺迫では 1950 年の平均活動間隔が得られた(図 211)。	沢津野では <u>2775</u> 年、阿蘇ファームランド東方では <u>3567</u> 年、寺迫では <u>2600</u> 年の平均活動間隔が得られた(図 211)。
11	P426, 上から 7～8 行目 下線部のとおり修正	沢津野で 5.1%、阿蘇ファームランド東方で 2.6%、寺迫で 7.2% となる。	沢津野で <u>0.6</u> %、阿蘇ファームランド東方で <u>0.1</u> %、寺迫で <u>1.0</u> % となる。
12	P430, 上から 11～12 行目 下線部のとおり修正	山出では 2300 年、南部田では 2800 年、川田町西および椈では 4250 年、津奈木沖では 2100 年の平均活動間隔が得られた(図 212)。	山出では <u>2780</u> 年、南部田では <u>3360</u> 年、川田町西および椈では <u>5667</u> 年、津奈木沖では <u>2800</u> 年の平均活動間隔が得られた(図 212)。

13	P430, 上から 13～16 行目 下線部のとおり修正	日奈久区間では、3600～11000年とされていたものが、4250年とより限定された。八代海区間でも、1100～6400年とされていたものが、2100年とより限定された。高野-白旗区間では、これまで平均活動間隔は不明とされていたが、今回、最長でも 2300～2800年と推定された。	日奈久区間では、3600～11000年とされていたものが、 <u>5700</u> 年とより限定された。八代海区間でも、1100～6400年とされていたものが、 <u>2800</u> 年とより限定された。高野-白旗区間では、これまで平均活動間隔は不明とされていたが、今回、最長でも <u>2800～3400</u> 年と推定された。
14	P850, 下から 17 行目 下線部のとおり修正	少なくとも 5 回のイベントが確認され、平均活動間隔は 2600～1700年と見積もられた。	少なくとも <u>6 回以上</u> のイベントが確認され、平均活動間隔は最長で <u>2775</u> 年と見積もられた。
15	P850, 下から 6～5 行目 下線部のとおり修正	平均活動間隔は約 2400～2500年と見積もられた。	平均活動間隔は最長で <u>2780</u> 年と見積もられた。
16	P850, 下から 3～2 行目 下線部のとおり修正	平均活動間隔は約 3 千年である。	平均活動間隔は最長で <u>3360</u> 年と見積もられた。
17	P851, 上から 4 行目 下線部のとおり修正	約 7300 年前以降、約 1200 年前までの間に	約 7300 年前以降、約 <u>1000</u> 年前までの間に
18	P851, 上から 10～11 行目 下線部のとおり修正	活動間隔は 2100 年程度と推定した。	活動間隔は <u>2800</u> 年程度と推定した。